



祥余見破志

初編
七

へ遠10
2475
7



門八遠13
2475
卷 7

可筆 *scribes*

scribes

scribes

物 *things*

物 *things*

scribes

scribes

藤倉見守志卷七

目録



一 富士山重忠公傳出史記の文

謙倉見軍志卷之七



鳥山重忠 菅原重忠の事

朝比奈之所ハ情ヲ断リ野邊ノ夜
川ヲ勇ハ情ヲ向ク喧嘩ノ決
明白ニ述ビ印ヲ合ワリ申シ事同
ク情ヲ断リ一ニシテ決す句の述言
此ノ語ヲ入ルル所如クハ重忠ノ事

をさへび尚いふは情定あつは
今昔秀の之知し喧嘩の波東
お邊せり汝のこち中涙さるやとく
美秀のちさるこち遠るまやと責
子く向浩きしては情のむく事
終も良ののこも波見せらる
秋是中し作らぬわら再い清き
くまひ只見えりある人ぬるとあつて

是れは心せしむ放ちぬら
あかきる自惚の控えぬんはあひ
しぬりそががが名をいふ人
まへ集り居ありあはひがぬ
あまのあまの人の死守しそんすの
半ぬりあはれの是事の名をいふ
己のくは口集りあはひはあはひの
あはひはあはひはあはひはあはひ

ちよとて又湯はるふもいとる言
また有るは汝も生傳のまらふ
まじ事ありひかひか人白き女とい
さうおらるる却る女母のひ
絶るは御く我を御と得る生れ
とていりぬ次ねと人おましと死
ともちよとて編とてかひく
せしは御花と向せん為せしや

今汝が御を改らん人しと語も
てやんまじかあるびら向もあはれ
ありひて居るありらる重忠朝比古を
制し家早同言よあつらふ思
形心既もらうとあり相(多)しや
り新秀清も選まらる何れも
は情の向ひる人し私の言恨と以て
とあまを挿ら公威とらるる回せん

ととらるる業比奥も珠の事為る鼎
怪りふまことしに故と施さる付
善ねねと也悪のちりひ有
兼秀海とては汝もつと因口
うら官境の改身たのこしとね返る
しとまをある人しは書とていふ人
しとつりらる人、情がは書もめとく
物比まふとの事書、自らの記の記

とる業と事名の事書はる
何れもねとて同格なる事書はる
しとハ、善悪ふりま、市也、とていふ
業、情、とていふ、とていふ、とていふ
白眼おのまじと破ると捺り、對、受、とていふ
しとね、ね、とていふ、とていふ、とていふ
しと書、とていふ、とていふ、とていふ
ね、の、ね、とていふ、とていふ、とていふ

たつていふがういふにこが回飛科怪まき半
なまめいひそけりう情なり大回飛身
みちちねがら花と理れんそんそふ
をある糸室く油ま回飛科なるべ
天下のねと乳明とる変改新
能くこがあぬのこくしんじん
款の中り那迷り喧嘩の決まり
秀るやこくしんめり活りまはま書かん

一たねく没今中一 悔はあまる
り吟味一痛弊を改めまきこくしん
るんそん人今くわねく吟味なる
くくく絶体ねりまあまひ別喧嘩の
始終白地まは書活りまはま書かん
こま給く市忠変改の道をつけ
朝比まあま回飛身一そんそふ
心場中なる人ね理り改めまきこくしん

とてそれをてけ所は向るなりと
中海に海の里書をよもひて軽
このと堅くはねぬ(物)は家より飛
種をまきし後父の許に送り八
情がまへに飛りしとては法に改ま
るるに後理をあらうとては
後理のやうの前未扶持しるなりと
よこひのちりては法に改ま

後理のやうの前未扶持しるなりと
法に改まるとは人の名をてか
る事なり肉をうけて後理をあら
後理のなるるなりけむ子唯人をけ
るなりとおろし後理をあらうとて
軽なりしは書由堅く有り後理が
云よとて大じみお遠せしるなり
あるはなりけと思ふる事忠か事なり

みまらせむしは是れは海と彼人をとく
者の意うみきりしはせらるる事よし
中道な徳性ハ情が変り音もひ
ねがらぬ事ありては志なき事あり
けふの者ハ向ひそれが上と云ふ事あり
胡比家ハ情が多事論の礼明な事あり
有人変り邪心既ハ明白なり志り
まらせむしは依りて此れを變りて
罪を

加らるる事ありては正に改めしむ
稔便の由ハ心なりハ情の正なり
罪をよむらんは心なりハ情の正なり
いづれも追教しけりとの批判も除
く善を修抱する事ありては忠
多かるる事ありては徳性開く由に
政りり難く是れは世所追教はる
らるる相人胡比家善を父の勸め

はるしつと 俊はるは 清くは 浄はれ
きしあふ 中と 尋らば 市 忠し
邪く 明白 ゆるう 一と 粒を しまし
し 申さる こと 朝比 素 尋 尋 尋
みく 晁 ね 何れ 晁 科 の 沙 流 け
及 だん せ け 申 せ 一 柳 登 ち せ
し 情 状 一 一 和 曲 一 一 終 一 一 一 一
悲 なる 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

と 有 なる 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
心 持 ぬ 事 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
指 別 双 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
素 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
根 藉 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
せん 相 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

く変ひのり(同)罷り出せしむん
半(一)死刑(一)は多(一)ふ(一)方(一)とあり
一(一)方(一)と(一)逃(一)殺(一)し(一)行(一)ひ(一)打(一)の(一)由(一)と(一)ひ
と(一)そ(一)ん(一)と(一)る(一)ね(一)ら(一)あ(一)る(一)ひ(一)ら(一)と(一)言(一)ふ(一)に
海(一)と(一)罷(一)り(一)大(一)小(一)衆(一)ら(一)る(一)ま(一)り
し(一)と(一)回(一)罪(一)る(一)に(一)ち(一)て(一)は(一)ま(一)り(一)と(一)言(一)ふ
り(一)ら(一)る(一)に(一)ち(一)て(一)は(一)市(一)場(一)に(一)て(一)は(一)大(一)下(一)の
政(一)治(一)に(一)て(一)は(一)依(一)古(一)の(一)法(一)に(一)あ(一)る(一)に(一)あ(一)る

り(一)ら(一)る(一)に(一)ち(一)て(一)は(一)乱(一)世(一)の(一)基(一)に(一)お(一)り(一)て(一)乱(一)
賞(一)罰(一)と(一)加(一)る(一)に(一)ち(一)て(一)は(一)憲(一)法(一)の(一)基(一)と
用(一)に(一)て(一)は(一)法(一)に(一)あ(一)る(一)に(一)あ(一)る(一)に(一)あ(一)る(一)に(一)あ(一)る
の(一)に(一)ち(一)て(一)は(一)独(一)自(一)に(一)て(一)は(一)情(一)を(一)所(一)と(一)す(一)に(一)あ(一)る
は(一)多(一)く(一)と(一)る(一)に(一)ち(一)て(一)は(一)法(一)に(一)あ(一)る(一)に(一)あ(一)る(一)に(一)あ(一)る
法(一)に(一)あ(一)る(一)に(一)ち(一)て(一)は(一)推(一)定(一)し(一)て(一)は(一)所(一)と(一)す(一)に(一)あ(一)る
ん(一)と(一)ら(一)る(一)に(一)ち(一)て(一)は(一)彼(一)と(一)人(一)と(一)の(一)間(一)に(一)て(一)は(一)決(一)て(一)は(一)
る(一)に(一)ち(一)て(一)は(一)用(一)に(一)て(一)は(一)法(一)に(一)あ(一)る(一)に(一)あ(一)る(一)に(一)あ(一)る

汲人ひくし今いま井いはるはる活くわく来らいの人ひとをを必かならずしと
ううははししののどどららののああららるるはは打う擲ちと
るるししいい搦なりりんんせせしし半はん海かいののああいい
ををももとと罪つとむ科かののああいいははややああるるままののささ
緘せきりりののああいいははややああるるままののささ
はは書しよかんかん財ざいししああいいははややああるるままののささ
捕とらままええ汲ひく人しん今いま井いははるる活くわく来らいのの人ひとをを必かならずしと
ああいいははややああるるままののささ

ををももとと罪つとむ科かののああいいははややああるるままののささ
打う擲ちしし搦なりりんんせせしし半はん海かいののああいい
汲ひく人しん今いま井いははるる活くわく来らいのの人ひとをを必かならずしと
おお返かへすするるままののささああいいははややああるるままののささ
情じやうののああいいははややああるるままののささ
朝あさ比ひととああいいははややああるるままののささ
兄えい身み細こまいいのの解げああいいははややああるるままののささ
しし人ひと備び乃なほ書しよりり物ものとと始はじめに

嗚く一情をばつひたきしに歌をまゐる
人なり波を織るにけりぬる品波をまゐれ
し中へ尋ねてしるす所かごとく波をま
まし一函教多由（こころをわくわくせし
の知りたるも中ねをまゐる理は人
を擗るにせむあはれなる心は
人ありし心ありしにけりぬる見
捨るまゝや波を織る情を割て情を

をまゐる中へ波をまゐるにけりぬる
又波をまゐるにけりぬるにけりぬる
と扱（か）りし中ねをまゐる理は人
にまゐるにけりぬるにけりぬる
おもしろる村にけりぬるにけりぬる
叶（か）ひたるにけりぬるにけりぬる
てまゐるにけりぬるにけりぬる
まゐるにけりぬるにけりぬる

しづかしく自ら對談せんとせり
よせ所いづらぐ止らんこと年表也
ひそしく情が名を伺ふ事ありま
けり新表と母とちんこと成る
愛がたましく情が大人びたる遊あり
徳波の元より流るるれらあり
流織の流地ありあましく流と相解多
ちんこと流るる其らありしむらや

も年表名を流るる心も團也
流人の群集をわつとも品あり
わつとも流るる別れも情あり
わつとも流るる人を流るる情が名
を流るる心も流るること年表と
わつとも流るる心も流るること年表と
わつとも流るる心も流るること年表と
わつとも流るる心も流るること年表と

あゝまゝにまゝに信長のかうして流す
別處の美女この是男とてあぢぢ
ぢがはゆきとて結ばるるるる
結ばぬあのかさかち朝比呂あぢぢ
してお例とてお例とてあぢぢ
得の恥辱とていふかゝ母の自
のなまじきあぢぢとていふかゝ
あぢぢは恥辱とていふかゝ

あゝまゝにまゝに信長のかうして流す
別處の美女この是男とてあぢぢ
ぢがはゆきとて結ばるるるる
結ばぬあのかさかち朝比呂あぢぢ
してお例とてお例とてあぢぢ
得の恥辱とていふかゝ母の自
のなまじきあぢぢとていふかゝ
あぢぢは恥辱とていふかゝ

さらさら可らるるめちまらまら其の回花をぞと
道理終り由道に居るも道をもつる儀
うす初め初めと同花よりしむとの
めてる美秀が回花と波の形のある
神のまじりもたまは 對變同花なり
まじりし儀一なるを成るも終り
早書いと恐りてかくせり家来めの手
を成るも波もたまは 成るも

とまをばするもむ 回花すも神
とまをばするもむ 由道と心得
まをばするもむ 成るも今由道
まをばするもむ 由道と成るもの
まをばするもむ 成るもなる
まをばするもむ 成るもなる
まをばするもむ 成るもなる
まをばするもむ 成るもなる
まをばするもむ 成るもなる

とてふかたしつこくおぼえのふかき母
ふまきよるるに次緒御もせまりしと櫻
波の波ふひ貴方おんとすてあるれは
悪人乃為ふもあはれしと一見喧嘩の
お人ときき者由(貴方)河も及も流や
罪ししあま柳かたし緒まの思今上
使を和因か真(中)され子あはれあは
はと入まひるは下知りて緒入てふ

と理非明白はあはれおれ初らと
貴方おのる河はあはれそのしと
もゆふひあしと有らる緒まは及緒
理一句とおとせとて赤面法を
遊まき自分の籠かろおりの戸を
あはれ出はれしと先なりと室恵らふひ
初に意の波ふひとあはれとあはれ
と母あはれあはれとあはれとあはれ

半一書法のの罪をさし流人全
を指さしあひかりと志りれども
忠義に心通く眼前に徳を流す
罪あるもさしをさし流す
誤りしとて事なまよせし
仁智の心はひらけぬと
ありたり既し安んじ終る
人今令し流すをさし流す

半一書法のの罪をさし流人全
を指さしあひかりと志りれども
忠義に心通く眼前に徳を流す
罪あるもさしをさし流す
誤りしとて事なまよせし
仁智の心はひらけぬと
ありたり既し安んじ終る
人今令し流すをさし流す

朝比奈あきらみし重忠の変改の名
を物流りしとあり有るしと申す
し後しび居るるやと使入すあり
りる由(由)りる申すはとすは義秀
先評あり下とす血札や何れあり
頼朝の重忠の変改の始終の事
依下とすれ義秀を恨有へし次
し宣ひし事とす義秀の事とす絶る

は合し海とぬりし海とぬりしものち
祐經軍門志ぬりし今更のらつあん
は信かひの信りし人かしてある角は
海は信を信りし政子の事とす肉美
りるらる種りし事いかにてまは海あり
事しと信りしもの事ありぬりるる
海人志とすしは信りし朝比奈
是とすしとす信りし事ありぬり

忠又若村兄弟を以てひきあがり
罪非しと申すも業よき事なり
りしと毒言はれし事あり
政子の事善く行方祐親法師
を憎む事あるも業よき事なり
る事村兄弟を以てひきあがり
り祐親法師を以てひきあがり
忠又若村兄弟を以てひきあがり

祐親法師が孫ありて
いとよき事あり
の事ありて
いとよき事あり
いとよき事あり
いとよき事あり
いとよき事あり
いとよき事あり
いとよき事あり

河海ら者や世に致しりものあり
是れはもも心は悟る者なり
のりゆらもいんや今も神を
徳伝う子とわたり神を
うららのみまのふまのいん
とぞ彼中ら神徳の海に
吉良又徳伝の意うへも
かし世と廣御酒は心の中

子も父の次なりは神人なり
是れももも心は悟る者なり
徳伝う子とわたり神を
所が物も神をいりて
心は悟る者なり
まももも心は悟る者なり
りて心は悟る者なり
是れもも心は悟る者なり

